

令和7年度第2回京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会 会議録

1 開催日時 令和7年10月28日（火）午後4時00分～午後5時30分

2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎1階 211会議室

3 出席者氏名

(1) 京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会委員（6名中6名出席）

行待佳平 委員長、今井みどり 副委員長、田中匡代 委員、小谷順一 委員
川口勝彦 委員、吉野有香 委員

(2) 事務局

引野 雅文 市長公室長
島貫 博志 市長公室政策企画課長
堀江 亮平 市長公室政策企画課係長
青木 涼人 市長公室政策企画課主事

4 議事等

(1) 委員長あいさつ

(2) 議事

ア 令和7年度基金活用事業の変更について

(3) 意見交換

ア 韓哲・まちづくり夢基金事業補助金の運用について
・概算交付について
・補助対象期間について

(4) 副委員長あいさつ

5 公開又は非公開の別

公開（「京丹後市審議会等の会議の公開に関する条例」第5条第5号アに基づく）

6 要旨

(1) 委員長あいさつ

本日はお忙しいところ本委員会にご出席いただき感謝申し上げる。本日は基金活用事業の変更についてご審議いただくほか、今後にむけての補助金の運用についてもご議論いただく予定。会議が円滑に進むようご協力をお願いしたい。

(2) 議事

ア 令和7年度基金活用事業の変更について

《資料1に基づき学校教育課から説明》

資料1 令和7年度基金活用事業の変更について

《質疑応答及び意見》

（委員）「いじめ・不登校防止対策等総合推進事業」について、オンラインを活用する

ことはよいが、基本的な人との繋がりが生まれなければ、いじめや不登校はなくならないと思う。基本的なコミュニケーションもしっかりと重視して事業を進めていただきたい。

(委員)「グローバル人材育成事業」の中学生海外派遣について、15万円の個人負担が家庭の負担になり、中には参加できないという生徒もいると聞く。補助率について、今後上げていくこともご検討いただきたい。

(委員)「いじめ・不登校防止対策等総合推進事業」のSNS相談業務委託事業について、2ヶ月で800件の相談があったとの記述があるがこれは想定内であるか。

(学校教育課) こちらは初めての取り組みではあるが、LINEよりは増えていくだろうと想定して切り替えたもの。ただ、想定以上の相談があったと感じている。相談があったうち、いじめに関する相談は一部であったものの、そこに至るまでの小さな声までも拾えるようになったことは大きな成果だと感じている。

(委員) 今後、相談件数の増加する上では、相談員を増やすことについてもご検討いただきたい。

【結果】委員会としては承認とする。

(3) 意見交換

ア 韓哲・まちづくり夢基金事業補助金の運用について

- ・概算交付について
- ・補助対象期間について

《資料2に基づき事務局から説明》

資料2 韓哲・まちづくり夢基金事業補助金の運用について

《質疑応答及び意見》

・概算交付について

(委員)申請者からすると事業実施前に予め大きな額の予算を用意するのは難しいことであり、概算交付できることは良いことだと思う。一方で詳細な見積りを提出してもらう必要があると思う。

(事務局)市の補助金交付規則も参考にしながら導入を検討していく。また、事前の見積りについても審査会前に事務局で書類審査を行うようにしたい。

・補助対象期間について

(委員)設けるべきだと思う。他の補助金でも設けられている。持続可能な組織として自立して活動できるように制限を設けるべき。

(事務局) スポーツ大会等、参加者が年々変わっていく事業もある。特に人材育成事業は長期間にわたって実施する必要がある一面もある。一律に期間を設けるのではなく、審査で判断していくようにしたい。

(委員) 補助金申請の方法が分からず、申請できていない団体もあるだろう。事務局で申請のサポートをしていただきたい。

(委員) 年々、申請数も増加しており、その内容も多岐にわたる。事務局の方でも書類審査のほか、審査のポイントをまとめていただく等、工夫いただきたい。

(委員) 実施した事業内容を報告する報告会を実施してほしい。補助金のPRのためにも、市民への報告のためにも、ぜひ実施してほしい。

(事務局) 過去には韓会長を京丹後市へお呼びして報告会を開催していた経過もあるが、近年はコロナの影響や韓会長の体調がすぐれないこともあり、報告会の実施ができていなかった。今後は報告会を実施できるよう検討していただきたい。

【結果】意見交換の内容を参考に事務局で検討する。

(4) 副委員長あいさつ

委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。本補助金は年々、申請数が増加しており、審査会も長時間にわたるようになっている。審査を行う負担は大きくなっているが、市民の夢を後押しするという補助金の趣旨をしっかりと念頭に置いて、今後も審査や事務局運営に務めていただきたい。